

創立140周年記念 節目の年 愛知一中・旭丘高校 野球倶楽部 報告

旭丘7期 藪下 博
(愛知一中・旭丘高校野球倶楽部副会長)

2. 全国中等学校野球選手権大会 優勝100周年

本校野球部は1893年の創部で高等学校(旧制中学校)では最も古い創部とされており。愛知一中の学生会規則に明治26年4月、柔剣術 講談、野球の各部を創部すると明記されており。今の柔道、剣道、弁論、野球の各部のことであります。

注1) *Dragon* を野球と翻訳したの

1. まえがき
創立140周年記念事業は11月18日に盛会裏に閉会しました。
2017年は愛知一中・旭丘高校野球倶楽部にとりまして、つなげ伝統 かがやけ競光 を実証するに相応しい年でありました。すなわち1917年8月に愛知一中野球部が全国制覇して百周年という節目の年でありました。今回さらに花を添えてくれましたのが、競光会頭形式での加藤知成(旭9期)、山田幸彦(旭17期)両君の野球倶楽部OBの受彩でした。

この野球倶楽部記念すべき節目の年に、次の三事象情報を皆様と共有したく思い、ここに簡単に解説させていただきます。

注2) 野球の歴史については 一中旭丘高校野球部ホームページ参照 <http://asahi.dcnv/>

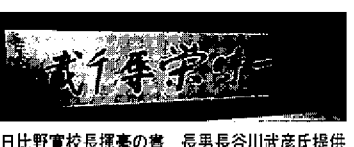
1917年第3回全国中等学校野球選手権大会に於いて愛知一中は優勝戦で関西学院中学を1対0で破り優勝旗を手に入れました。再試合を含め6試合(全て1点差)を一人で投げ抜いたのは、長谷川武治投手兼主将(一中41回卒)でありました。夏の大会とも呼ばれる全国野球選手権は、第1回大会が開催されたのは1915年(大正14年)大阪豊中球場でありました。第3回〜9回大会は西宮の鳴尾球場で開催され、大正13年甲子園球場完成後の第10回大会以降現在まで甲子園球場で開催されております。戦時中の開催中止がありましたので、2018年は第100回の記念大会となります。春の大会は全国選抜野球大会と言われ1915年(大正13年春)が第1回大会であり、名古屋の山本球場(昭和22年〜63年国鉄八事球場と改称、現在は選抜野球発祥地の記念碑がある)で開催され、第2回大会からは甲子園球場にて現在まで行われております。愛知一中の全国大会出場実績は昭和初期迄に、選手権大会8回、選抜大会は4回を数え、優勝経験もある文武両道の名門校であり、野球王国愛知と全国に轟かせる礎を築いた強豪校でもありました。この実績から夏の大会が始まる時期になると名門愛知一中(現旭丘高校)が新聞記事に登場する機会が多くなります。その伝統を引き継ぐ証が第80回全国高校野球選手権記念大会で観られました。入場式に出場校の先頭を切つて、愛知一中校旗は地元女子高生が旗手、旭丘高校旗は柳生剛志主将(旭51期)が掲げて堂々と行進した光景はまさに、競光会記念事業のサブテーマ、つなげ伝統 かがやけ競光 がテレビ画面いつぱいに映しだされておりました。

5年(大正14年)大阪豊中球場でありました。第3回〜9回大会は西宮の鳴尾球場で開催され、大正13年甲子園球場完成後の第10回大会以降現在まで甲子園球場で開催されております。戦時中の開催中止がありましたので、2018年は第100回の記念大会となります。春の大会は全国選抜野球大会と言われ1915年(大正13年春)が第1回大会であり、名古屋の山本球場(昭和22年〜63年国鉄八事球場と改称、現在は選抜野球発祥地の記念碑がある)で開催され、第2回大会からは甲子園球場にて現在まで行われております。愛知一中の全国大会出場実績は昭和初期迄に、選手権大会8回、選抜大会は4回を数え、優勝経験もある文武両道の名門校であり、野球王国愛知と全国に轟かせる礎を築いた強豪校でもありました。この実績から夏の大会が始まる時期になると名門愛知一中(現旭丘高校)が新聞記事に登場する機会が多くなります。その伝統を引き継ぐ証が第80回全国高校野球選手権記念大会で観られました。入場式に出場校の先頭を切つて、愛知一中校旗は地元女子高生が旗手、旭丘高校旗は柳生剛志主将(旭51期)が掲げて堂々と行進した光景はまさに、競光会記念事業のサブテーマ、つなげ伝統 かがやけ競光 がテレビ画面いつぱいに映しだされておりました。

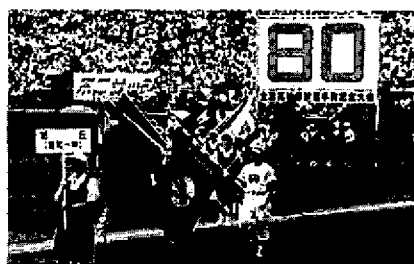
*参考・全国高等学校野球選手権大会参加校は2年前前、愛知県内

で190校。全国では3960校に指導して戴いた長谷川先輩を偲び優勝校でもあり、第1回大会から連続出場校15校でもあるので、愛知一中校旗、旭丘高校校旗の両旗ともに掲げての行進に出場招待された。

2017年8月は全国優勝を達成して100周年でしたから、この偉業達成の立役者でもあり、高校時代



日比野寛校長揮毫の書 長男長谷川武彦氏提供



甲子園球場第80回記念大会(1998年)、入場行進する柳生主将、旭丘高校旗。朝日新聞提供



鳴尾球場第3回大会(1917年)優勝行進する愛知一中長谷川武治主将 朝日新聞提供

3. 昭和23年度野球部日誌(3月24日〜11月24日)とスコアブック(昭和22年4月26日〜昭和28年8月25日の6年間の試合、全記録13冊)の出現。戦後の教育改革により、愛知一中から昭和23年4月愛知県立第一高等学校となり、10月には再編成され、名古屋市立第三高等女学校と統合して愛知県立旭丘高等学校となりました。

昭和23年度野球部日誌はこの激変する教育改革の艱難辛苦の中で生徒達が如何に勉強、部活等に取り組んだか? 毎日二名連名で書かれていて、当時の高校生活を知るには貴重

な資料となります。スコアブックには、400勝投手金田正一投手の享栄商業と25年4月(大須球場)、6月(鳴海球場)に対戦し2勝した記録や28年4月、旭丘グラウンドで春

連続9三振プロ野球記録保持者、梶本隆夫投手を擁した多治見工高と対戦した貴重な記録等をも見ることが

できます。戦後の紙質、インク等が悪い時の書類ですので、閲覧するにはポロポロになり、読み辛いで現在、松尾直規君(旭20期、愛知大学

野球連盟副会長、中部大工学部長)がデジタル保存作業中であり、今後、旭丘の重要な収蔵保存資料になり得ると考えて居ります。当時の厳しい教育環境下において生徒はどの様にその苦境を乗り越えて行動していたのか? 解説報告されることが期待

されます。日誌等の資料は野球部部長兼監督であった故齋藤久康先生(一中59回

捕手)の在任中の文書であり、当時名大の学生でありながら野球部のマネジメントを任されていた故新村雄

康先輩(旭3期、一中野球部OBとの連絡、昭和41年よりの愛知一中、旭丘高校野球倶楽部設立から平成13

年まで倶楽部事務局を引き受けて戴きました)に託されたものと考えられます。本年(2017年)6月に奥様が野球ボール箱を見つけ、中に日誌等がありましたので連絡委託して下さいました貴重な資料であります。Scorebookは対外試合などで

対戦校の64年以上前の選手達の名前

や戦況を知ることでもできるので、相

手高校に当時の情報、話題を提供して、親睦を図るのに利用されれば有効な資料となると期待しております。

4. 2017年度新チーム(旭71、72期生)の素晴らしい活躍 先輩方が確立した実績の重荷を背負っての新チームの活躍は、伝統を引き継ぐに相応しく、称賛に値する活躍を見せてくれております。

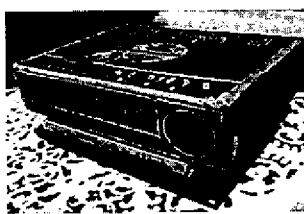
2017年夏の第99回選手権愛知県大会は7月15日、2回戦で敗退し、3年生10名の野球活動は終わりました。直ぐに、岩下俊典君を主将とした2年生9名、1年生4名の13名の選手と女子マネジャー2名で新チームが結成され始動開始しました。8月、第70回愛知県高等学校野球選手権大会(52校の参加制限)を目指しての各地区リーグ戦が始まり、名古屋大谷高校他に4連勝して参加資格を得た。このトーナメント戦の1回戦、2回戦に勝利し2試合を目指して9月23日、刈谷球場で公立高校の雄と言われている大府高校と対戦し

たが1対0で惜敗しました(勝てば選抜大会推薦枠入りか? とマスコミ関係者間で言われていましたが: 残念)。

その次の9月24日より、第38回名古屋市内県立高等学校硬式野球大会(18校出場)に参加、3戦勝利して11月5日(熱田球場)の優勝戦まで勝ち上がった。この試合も残念ながら天白校高(監督は旭52期の磯部君)に延長13回延長の末3対2の接戦で敗れました。試合には負けましたが試合内容が評価されておりました。

注3) 詳しい試合経過は愛知高野連新チームの十数試合を武田康敬君(旭22期) 自主的にコーチして戴いている)に選手への練習に対する姿勢等を聞きながら観戦してきました。強豪チームと互角に戦っていて、前述の接戦2試合の敗戦は今後の諸活動(対戦だけでなく、人生等)に大きな財産となる意義ある試合展開を見せてくれました。旭丘高校になってからの新人戦では、3位であった

昭和23年度野球部日誌とScorebook 13冊が入っていた公認Ball箱



昭和23年度野球部日誌とScorebook

32〜33期生)に匹敵する好チームに育っています。と評価できます。3年程前入部者ゼロ名と野球部の存続も危ぶまれた年度もあ

り、決して恵まれているとは言えない野球環境にも関わらず13名の選手達は結束、奮闘努力して戦っている姿は清々しくて感動を覚えるのは私

長、中壘監督、武田外部コーチの指導や保護者、OBの支援によるところ大であります。活躍の原動力は何と言ってもエース左腕小松健太郎投手の安定した投球と岩下舜典主将を中心とする全員の。伝統の重みを全力プレーのエネルギーに変えて戦う。心構えとチームワークの良さの賜物であります。後輩達がスポーツ紙のインタビューに語っていた。特徴あるユニフォームは先輩方の活躍を実感でき身が引き締まります。野球環境のハンデイなんて感じしません、集中して練習するので十分です、と

部活に取り組み姿勢、気力がなんと頼もしく感銘を受けました。特に球場における観客の拍手喝采の多い応援風景は印象的でありました。

2018年の活躍は大いに期待できるものと確信しております。皆様の応援よろしくお願いいたします。

5. むすび 記念事業式典、祝賀会、ホームカミングデーの収蔵品による記念展、後輩選手達の試合等に参加観戦して、つなげ伝統、かがやけ競光のテーマが、燦然と輝く金鯱章のもとに、諸活動がより充実し継承される様にと願うと共に、今後の競光記念事業での展示収蔵品の貴重な資料となり得る話題を提供させて頂きました。

伝統を 引き継ぐ責務 ひしひしと、の想い強く拙文を顧みず、ご容赦下さいますようお願いいたします。なお、投稿にあたり和泉喜久磨君(旭18期 野球倶楽部理事長)の協力を賜ったことに感謝いたします。

引き継ぐ責務 ひしひしと、の想い強く拙文を顧みず、ご容赦下さいますようお願いいたします。なお、投稿にあたり和泉喜久磨君(旭18期 野球倶楽部理事長)の協力を賜ったことに感謝いたします。



今年度保護者より寄贈された「競視眺眺 旭丘」の応援幕



準優勝賞状を掲げた選手達。旭丘野球部関係者より